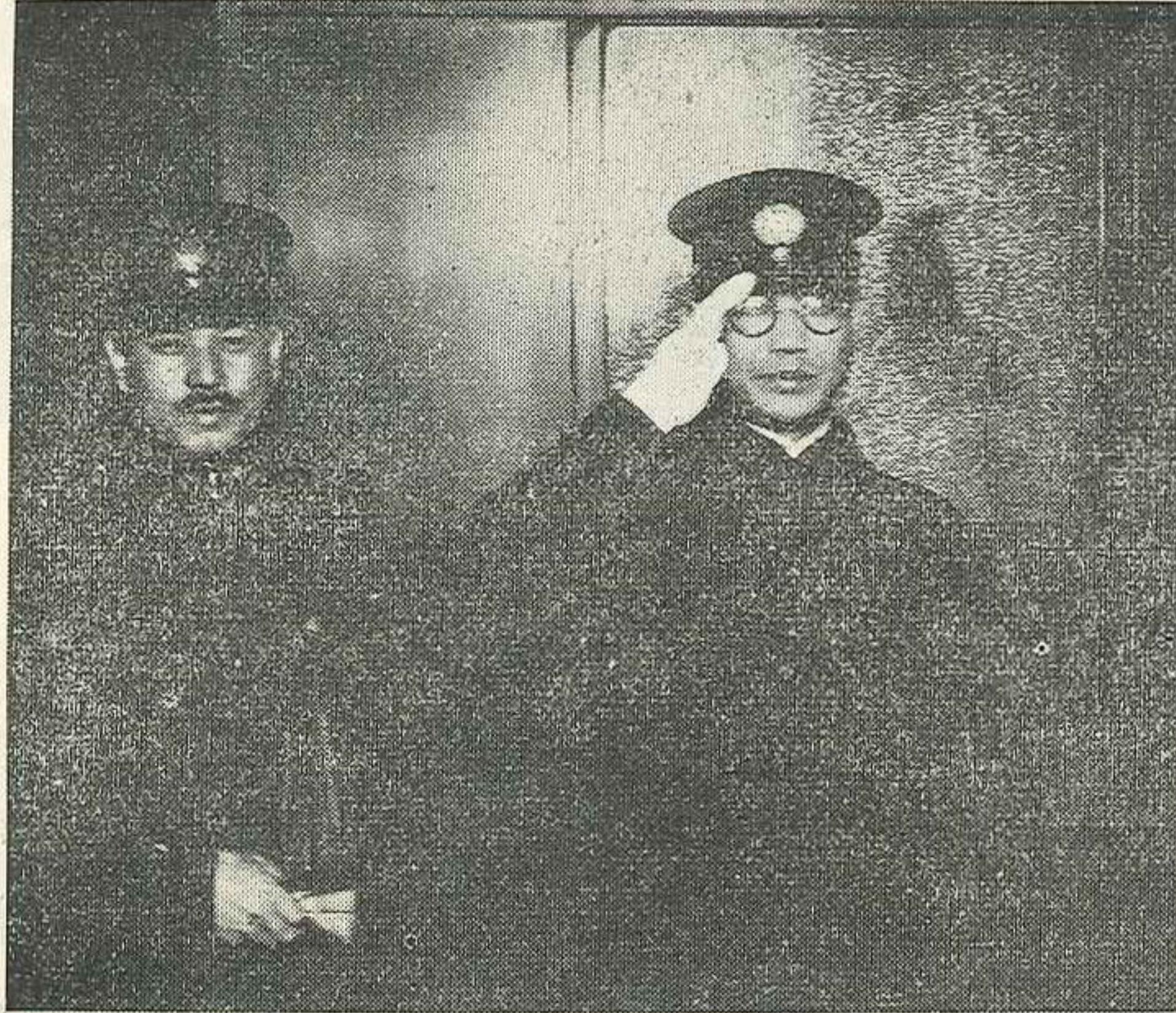


岩手縣



—從侍金大の遣差御へ地害災陸三—

天皇皇后兩陛下には三日
の三陸地方の震災、津浪には
岩手、宮城、青森の各縣
下賜の御沙汰あり、左の通り
は五日盛岡の岩手縣廳で下賜
され、また兩陸下には
地視察のため大金侍從を現地
從は四日午後十時半上野の震災に達った金御
差遣仰せつけられ、同侍
盛岡に向つた。

災害各地へ

禍 惡 大 の 陸 三

三日早暁二時三十一分北海道東北一帯より本州中部北方西半部にわたり、最近稀れに見る地震あり、東京地方では時計の振子が止まるほどであつたが、深夜のことゝて市民は極度の恐怖に襲はれ戸外に避難するものもあり、中央氣象臺の発表によれば最大震幅四十ミリ、震源地は東經一四三度、北緯三八度、金華山沖の海底で強震區域に當る岩手、宮城、青森の三縣下および太平洋岸一帶の震害は明治二十九年六月十五日の三陸大津浪當時の慘状を再現し、津浪の襲來、漁船の流失、家屋の倒壊、浸水、通信機關の停止など各地の慘害甚しく、殊に岩手縣釜石町では地震と同時に三ヶ所より火を發し焼失三百戸、倒壊六百戸、ついで間もなく襲來した大津浪のため流失家屋約三百戸を出し、水火の兩攻めに慘鼻の極を呈した。

海岸線の漁村は全部やられ一時をさまつたかと思はれた津浪が午前六時三十五分再び一丈余の大浪となつて押寄せ、家屋も田畠も無残な砂原と化した。最も被害の多かつた氣仙町長部々落は五十戸の

金石町は地震と共に三ヶ所より
發火、同町目抜の場所には殖産銀行
支店、稅務出張所等あり大混亂
を來したが、夜明け頃に至つて漸
く火勢衰へ鎮火した。一方丈余の
津浪至つて三百戸を一なめに持ち
去り一千二百戸倒壊した。なほ唐

福島縣
から石城郡中ノ作海岸地方
にかけ小津浪があり、村々では警鐘を鳴らして山へ避難し漁船は多數浪に没はれたが死傷者はない。
火急遽軍隊出動

然大津浪の襲來
更に釜石町では
猛火の呪ひ。

更に釜石町では

猛火の吼ひ

稀有の地震に次で

民は約五万に及ぶ見込である。

内二戸を残して盡く波にさらはれ即死十二名を出し、行方不明十八名、重輕傷五十名を出した。なほ廣田村は殆ど全滅のむごたらしい慘状を呈し淀濱部落の全戸數四十戸は大浪に根こそぎ呑まれ、死者四十、行方不明十九、重輕傷者八十名。

縣城宮

失二百四十戸、死者三百
浪宮城下の震災津々
に及ぶその被害の
著しいものは本吉
郡唐桑村、唐折村、

壞十六戸である。